

(注3) $k > k_0$ の擾乱は、系 I においては連続モードの重ね合わせで表現されるので、時間 t と共に $1/t$ で減衰する。これに対して、系 II においては指数関数的に e^{-pt} のように減衰するモードの重ね合わせで表現される。各モードの重ね合わせの振幅を $A(p)$ と書くと、擾乱の振舞は、 $\int_0^\infty A(p)e^{-pt} dp$ (厳密には離散的な p に関する和) で表わされる。もし、 $A(p)=1$ ならば擾乱は $1/t$ で減衰する。従って、指数関数的に減衰するモードの重ね合わせによっても代数的に減衰する振舞を記述できる可能性はある。

日本学術会議第81回総会報告

日本学術会議第12期最初の第81回総会は、1981(昭和56)年1月20, 21, 22日の3日間、本会議講堂で開かれた。

第1日は、定刻9時30分開会。直ちに会長、副会長選挙に入り、会長に伏見康治第4部会員、人文科学部門副会長に岡倉古志郎第2部会員、自然科学部門副会長に塚田裕三第7部会員を選出した。

午後は、第12期の活動を円滑にするための予備的検討委員会の報告が行われた。その後各部会を開き、それぞれ部長、副部長、幹事を選出した。

第2日は、15時すぎまで第11期の経過報告にあてられた。伏見会長は、前期の本会議の活動について所感をのべ、総合的な科学技術振興策樹立の必要を強調した。つづいて運営審議会付置各委員会、各部、各常置委員会、各特別委員会から経過報告が行われた。各報告とも、特に80数名の新会員を念頭において、学術会議全体、各部、各委員会の性格や活動をうきばりにする配慮の下で行われた。なお、第12期への引継ぎ事項等も報告された。その後各部会を開き、第12期の活動計画等について審議した。

第3日は、まず「第12期活動計画委員会(仮称)の設置並びに各種委員会の当面の措置について(申合せ)」が提案され、運営上の問題等についての意見が出されたのち、原案を可決した。

つづいて第12期活動計画に関する自由討議に移った。学術会議の活動の基本的なあり方については、総合的・学際的とりくみ、個々の科学者との連繋、長期的展望をもった継続性の必要等が強調された。さらに学術会議の組織・運営上のたてまえとしての自主・民主・公開の重要性等が指摘された。それとの関連において第12期に具体的にとりあげるべき重点課題として、人文・社会・自然科学の総合的発展の方策、都市問題、平和問題、福祉問題、学問体系の現状の洗い直し、学術情報生産・流通問題、発展途上国との学術協力問題、教育問題、学歴社会問題、国公私立大学問題、婦人科学者問題、食糧問題、原子力問題、沖縄問題等々が、新会員を含む30数名から提起された。

さらに第12期活動計画をめぐる討議の一環として、第80回総会において採択された「工学技術振興の方途を早急に講ずることについて(要望)」について説明があり、これをめぐって種々の質疑、意見がかわされた。

総会終了後、各部会をひらき、第12期活動計画委員会の委員の選出などを行った。引きつづいて第1回の第12期活動計画委員会を開いた。

こうして第12期の活動が始まった。会員の出席率は、第1日97.6%、第2日95.7%、第3日93.8%であった。

(日本学術会議広報委員会)